

下部温泉郷
国民保養温泉地計画書

平成29年9月
環境省

目 次

1. 温泉地の概要	2
2. 計画の基本方針	3
3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等 に関する方策	5
4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が 可能な医師の配置計画又は同医師との連携のもと入浴方法 等の指導ができる人材の配置計画及び育成方針等	9
5. 温泉資源の保護に関する取組方策	10
6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策	12
7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方 策	14
8. 高齢者、障害者等に配慮したまちづくりに関する計画	17
9. 災害防止対策に係る計画及び措置	20

別添

自然環境・温泉利用性等の概要

国民保養温泉地区域図

国民保養温泉地位置図

1. 温泉地の概要

本温泉地計画の地域は、山梨県身延町の下部温泉郷の周辺を含めた別添図面に表示する地域とし、その面積は133ha（図面測定）である。

身延町は、山梨県の南部で東経138度20分から138度36分、北緯35度17分から35度31分の間であって、東西約24km、南北約25kmで、総面積304km²を有し、北杜市、早川町について県下で三番目の面積を有している。

町の中央を北から南に日本三大急流の一つである富士川が貫き、多くの中小河川が注ぎ込んでいる。

また、富士川を挟んで東西それぞれに急峻な山岳地帯が連なり、西方には七面山（標高1,989m）東方には毛無山（標高1,964m）などが聳えている。

本町は、周囲を急峻な山々が囲む中山間地域であるが、平坦地は富士川沿いと富士川支流に広がり、集团的農地、集落及び市街地が形成されている。

山間部においては中小河川沿いに農地が切り開かれ、周囲には中小集落が点在している。

下部温泉郷は、静岡県と境を分ける毛無山等の山々を源とする下部川沿いにあり、自然豊かな山間の温泉地である。

平成16年9月13日に旧身延町・中富町・下部町の3町が合併し、峡南地域の中心として、日蓮宗総本山の身延山、西嶋手漉き和紙、井伏鱒二をはじめ多くの文豪が訪れた町で、町内各所に井伏鱒二、若山牧水、高浜虚子等の古文書、句碑があり、弘法大師の祈禱所や木喰上人の生家があり、木喰の里微笑館には多くの古文書等が残されている。身延町湯之奥地区には、戦国時代に武田信玄公を支えた国指定史跡「甲斐中山金山」があり、温泉郷の入り口にできた湯之奥金山博物館は、大勢の入場者で賑わっている。

昭和31年6月には、厚生省から「国民保養温泉地」として指定を受け、さらに、平成3年7月には、環境庁から「国民保健温泉地」として指定されていた。

現在も、下部温泉の評判を聞きつけ全国から身体を癒しに訪れる湯治客で賑わっている。

本温泉は、JR身延線の下部温泉駅周辺と徒歩で15分ほどの距離にある湯町で構成され、下部川に沿って旅館、商店、民家があり、由緒ある湯治場の風情を残している。温泉街の外れには「湯町ホテル公園」があり、6月初旬の源氏ホテルから平家ホテル、姫ホテルが舞い、2ヶ月にわたって、地元住民や湯治客の心を癒している。また、湯之奥と朝霧高原を分ける稜線上には山梨百名山の毛無山や竜ヶ岳、さらには世界文化遺産「富士山」の構成遺産「本栖湖」があり、多くの登山者で賑わっている。

現在、下部温泉郷には低温温泉7、高温温泉1の源泉があり、19の宿泊施設と日帰り温泉施設、1つの足湯がある。

近年の健康志向ブームもあり、地域住民や湯治客を対象に下部温泉会館でのヨガ教室、リバーサイドパークでのグランドゴルフ、温泉郷内でのフットパスなど、温泉と連携した様々な健康づくりの取り組みも進められている。

2. 計画の基本方針

近年、温泉地を訪れる観光客の志向は著しく変化し、団体旅行から個人、家族旅行へと移り変わる中で、文化や風景などの癒しの空間を求めるとともに、住民とのふれあいと交流、体験型の旅行などに変化している。また、超高齢化社会の到来の中で、高齢者・障害者にも対応できる質の高いサービスの提供も温泉地に求められている。

このような状況の中で、温泉利用者にとって魅力ある温泉地であり続けるためには、下部温泉郷地域を構成する地域住民、旅館・ホテル経営者、病院などが、NPO法人、地域外住民、関係行政機関などと連携する中で、自主的に、かつ、創意工夫を重ねながら本計画に基づくまちづくり活動を効率・効果的に推し進めることで、地域力の向上を図る必要がある。療養、保養、休養に適した温泉地を目指し、地域の特性を活かして、健全な保養温泉地として、老人や障害者にやさしい温泉地、健康増進型保健温泉地を目指す。方針については、次のとおりである。

- (1) 訪れるすべての人を地域全体で、おもてなしの心をもって迎えることができるよう、地域住民、旅館経営者、病院関係者、関係団体などが協力して取り組むことによって計画目標を達成する。
- (2) 地域資源の見直し。特に、下部の温泉の効能を旅館関係者はもとより、地域住民に周知し、観光業に従事する者はもとより、地域住民が温泉の効能を理解し、湯治客に正しい知識を伝えるとともに、全国に発信することによって、湯治客の増加を図る。下部温泉郷は高温温泉もあるが、低温温泉として有名であるため、冬場の利用者が極端に少ない。そのため、高温温泉の効能も旅館関係者、地域住民に周知し、温泉郷全体で温泉利用者の増加に取り組む
- (3) 旅館事業者の意識を高めることで、温泉の衛生管理及び資源保護に取り組む。低温温泉7、高温温泉1の源泉の保全はもとより、旅館事業者の衛生管理への取組みが重要であることを再認識し、温泉利用者への泉質等の正確な情報の提供及び泉質の詳細を表示する。
- (4) 湯治場としての取組みの一環として、道路や宿泊施設、設備などの整備を行うとともに、旅館事業者が中心となって「湯治客にやさしいまちづくり」を行う。
- (5) 健康管理や疾病予防のために温泉を利用した健全な保養、療養の湯治場として全国に向けて下部温泉の利用促進を図る活動を行う。

3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策

(1) 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の概要

下部温泉郷は、山梨県の南部に位置し、富士川の左岸に沿うJR身延線下部温泉駅から、下部川に沿って連なる自然豊かな温泉郷である。下部川の中流には湯町ホテル公園があり、6月初旬から7月下旬にかけて源氏ホテル、平家ホテル、姫ホテルが乱舞する。さらに上ると湯之奥集落があり、石畳の道を上がると歴史の面影が残る国指定重要文化財・門西家がある。毛無山登山口に続く林道は静岡県の朝霧高原に続き、湯之奥猪之頭線トンネルを抜けて見る富士山は絶景である。下部温泉郷は、旅館・ホテル19軒、土産品・商店8軒、飲食店8軒、理美容3軒が並び一般住宅を合わせて形成している。

下部温泉郷は1300年の歴史を持ち、12代景行天皇の代に甲斐国造塩海足尼が、領内視察の際に当郷（現下部）の山間を通行し、湯気が立ち上がるのを見て立ち寄り、この湯を「塩部の湯」と名付けたのが始まりだとされている。その後、43代元明天皇のとき、知温部村と附され現在の下部となった。

療養の歴史も古く、54代仁明天皇のとき、甲斐の国主藤原貞雄の次男、藤原正信は、この知温部の湯を尋ね療養して疥癬を治した。また、堀川天皇のころ、甲斐源氏新羅三郎義光が、源氏在中の戦いで負傷した家来を入浴させ、三日で治したという言い伝えが残っている。以後、中世戦国時代になると、武田信玄公が戦場で傷ついた将兵を療養させ、自らも傷を癒したと伝えられている。天文12年8月、信玄公の家来、佐野新佐エ門尉正隆は信州上田原の合戦で負傷し、信玄公によってこの湯守を命ぜられた。こうして武田信玄公は下部の湯を重要視し、傷兵の療養に利用した。これが後の「信玄公のかくし湯」と言われ、現在下部に知れ渡っている（療養・保養・休養に適した温泉地である）。

温泉街には、数多くの文人が訪れ、旅館の敷地内や橋のたもとに建てられた歌碑が、その足跡を記している。井伏鱒二も下部温泉郷に足繁く訪れた一人で、温泉郷の常宿で執筆された「下部の湯元」「富士川支流」「ヤマメ釣り」の中に源泉館、やまめ床、などが書かれている。源泉館には、武田信玄公と父信虎公の土地・浴場免許状、徳川家の土地・浴場免許状がある。また、下部川上流の毛無山中腹には、武田信玄公のかくし金山と言われる湯之奥金山があり、当時山中には金山衆を中心に湯之奥三千人と言われる集落があつて、ゴールドラッシュの熱気に包まれていたと伝えられる。下部温泉駅近くの湯之奥金山博物館には、湯の奥金山からの出土品や鉱山道具などが展示されている。

下部温泉郷の小高い丘に熊野神社があり、神社に伝わる太々神楽は古くより地域住民によって受け継がれている。5月の祭典には、松葉杖供養祭があり、湯治客の奉納した松葉杖をお焚き上げ、供養している。

(2) 取組の現状

下部温泉地域には、スカイツリーと高さが同じ醍醐山がある。その醍醐山を整備、保全している団体「醍醐山を愛する会」がある。この会は、地域住民で構成された団体で、東京のスカイツリーが完成した年に、標高がスカイツリーと同じ634m（ムサシ）で、下部温泉をPRしようと発足された。旅館経営者や行政関係者で構成される「下部観光協会」、旅館経営者や女将会で構成される「下部旅館振興協同組合」と協力して、自然環境保全やまちづくりの活動を行っている。その他、熊野神社の祭典等を継承している「保存会」、下部の歴史・文化を学ぶ活動をしている「まちミュー友の会」の団体が、フットパスの活動を通して下部温泉郷の歴史、文化、風土等を活かしたまちづくりに取り組んでいる。

①自然環境

- ・下部温泉郷は、周りを山々に囲まれた自然豊かな湯治場で、手前には高さ634mの醍醐山、奥には天子山塊毛無山を望み、春には新緑と山桜の薄いピンクに染まり、夏には深緑、秋には紅葉、冬は葉を落とした木の風情と、四季を通して自然の変化を楽しむことが出来る。醍醐山や毛無山は、醍醐山を愛する会、下部観光協会、県・町行政が協力して、登山道の整備や登山口から山頂に至る要所に看板を設置するなど、景観の保全に努めている。

②まちなみ

- ・下部温泉駅から温泉郷に向かうと、右手に湯之奥金山博物館、リバーサイドパークを眺めながら下部川沿いに緩やかな坂道を歩くと20分程で温泉街の中心にたどり着く。温泉街は、昭和の様相を呈した和風の旅館が立ち並び、湯治場の雰囲気をもし出している。道端には、地域住民が季節毎に花を植えて、湯治客や登山者の心を癒している。

③歴史・文化

- ・下部温泉郷には、若山牧水の歌碑、高浜虚子の句碑が建ち、弘法大師の祈祷所や熊野神社、湯之奥金山の歴史を伝える金山博物館があり、金山博物館エリア・温泉街エリア・湯之奥エリアが歴史散策コースとして設定されている。
- ・温泉郷を訪れる湯治客や近隣住民が、温泉郷の歴史や文化に触れながら楽しめるように、神社や歌碑、地蔵等の情報を盛り込んだオリジナルマップを作成している。また、下部区公民館が毎月発行している湯町だよりには、温泉郷の神社等の歴史が紹介されている。さらに、下部温泉郷を盛り上げようと地域の魅力を再発見するフットパスツアーが定期的に行われ、温泉郷の歴史や文化を学ぶ機会を設けている。

④その他

- ・「下部魅力づくり協議会」では、下部のお湯の効果、良さを広く周知するため、鉱泉石鹸やうるおいミストを考案し、町内土産品店や旅館等で販売している。

(3) 今後の取組方策

下部観光協会を中心に、地域住民の声を反映しながら関係機関と連携し、現状の取組みを維持し、自然環境、まちなみ、歴史・文化、風土等の維持・保全を図るため、旅館経営者、商店・土産品店経営者、下部区関係者等で構成する下部観光協会が地域住民に協力を求めて、下部温泉郷の活性化に向けて、自主的なまちづくり活動に取り組む。

①自然環境

- ・醍醐山、毛無山の登山コースの保全に努め、「登山と温泉」のコラボレーションを確立していく。
- ・散策コースをより多くの人に利用してもらうために、散策コースを延長して、数箇所にスタンプ場所を設ける。

②まちなみ

- ・温泉街の道路は一本のみで、比較的交通量が多く、工事車輛の通行もあり、車道と歩道の境が無く、歩行者の通行に支障をきたすこともあるため、区でも車輛の駐車禁止を徹底するよう呼びかけている。建物の前は舗装道路で花木を植栽するスペースが無いので、家々ではフラワーポットに花を植えるなどで補っているが、統一感がないので、観光協会が統一したフラワーポットを配布し、植栽の日を設けて温泉街の環境美化を図る。
- ・ホテル公園の源氏ホテル・平家ホテル・姫ホテルの保護に努めると共に、四季を通して楽しめる公園づくりに花木の植栽を行い、湯治客をはじめ地域住民、近隣住民の憩いの場を造っていく。
- ・現在、金山博物館に足湯があるが、ホテル公園に足湯を望む声が多く、散策コースの利用を促進するためにも、ホテル公園と温泉街に足湯を設置する。

③歴史・文化

- ・下部温泉地域には、熊野神社や弘法大師の祈祷所、文人の歌碑等があり、散策コースも設定されている。フットパスの活動の中で湯治客や地域住民に対し、各施設や歌碑などの説明を行い、地域住民に周知を図っている。
- ・下部温泉会館は、地域住民の利用度が高く、公民館活動の一環としてヨガ教室やダンス教室等が行われている。一部の旅館でも宿泊客を対象にヨガ教室等に利用して

いるが、下部観光協会では、「ヨガ教室と宿泊」「フットパスと宿泊」等の独自のプランを各旅館並びにホームページ等で広く情報発信し、地域コミュニティ施設である温泉会館を活用した健康・文化活動に取り組んでいく。

④その他

- ・下部リバーサイドパーク周辺には、金山博物館をはじめ、テニスコート、ゲートボール場、公衆トイレ、足湯等の施設があるが、金山博物館と足湯以外は決して利用度が高いとは言い難い状況にある。下部区では、観光協会と連携してテニスコートの一部をグランドゴルフ場にし、地域住民の健康と憩いの場にする計画を進めている。これらの施設を活用した「健康・体験と宿泊」等のプランを湯治客にアピールし、保養温泉地としての下部温泉郷の魅力を発信していく。

4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画又は同医師との連携のもと入浴方法等の指導ができる人材の配置計画及び育成方針等

(1) 医師又は人材の配置の状況

医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行うしもべ病院内部の医師との連携により、入浴方法等の指導を行う人材の育成を図っている。その氏名及び活動状況等は、以下のとおりである。

①医師

氏名等	専門分野	活動内容	配置年度
理事長	外科、肛門科 リハビリテーション科	しもべ病院では、医師、看護師、介助職員、リハビリテーションスタッフ、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー等のチーム医療を行い、個々の患者に対し、医療ケアを行っている。	S 5 7 ~
副院長	神経内科、内科		

②人材

資格	人数	医師との連携を含めた活動内容	配置年度
温泉利用指導者	1	旅館、ホテル等の宿泊施設において健康増進や温泉療法のための温泉利用を、安全かつ適切に実施できるよう指導する。	H 1 5 ~
温泉入浴指導員	6		H 1 9 ~

(2) 配置計画又は育成方針等

しもべ病院の医師の協力を得て、入浴時の注意事項や温泉の効能等について、旅館関係者への指導を行うとともに、温泉の知識向上を目指して、旅館関係者への温泉入浴指導員の資格取得を推進する。

将来的には、温泉療法医との連携、及び医療費控除の対象となることを目指す。このため、しもべ病院の医師に温泉療法医の資格取得を依頼し、一般社団法人日本健康開発財団等に温泉療法医を紹介してもらうなど湯治に関する指導・助言を受ける連携体制を構築する。

5. 温泉資源の保護に関する取組方針

(1) 温泉資源の状況

主な泉質はアルカリ性単純泉であり、現在9源泉が延べ31施設で利用されている。

源泉名及び 源泉利用施設	温度 (℃)	湧出量 (L/分)	p h 値	泉質	湧出 状況	所有者
しもべ奥の湯高温 源泉 ホテル・旅館他 18施設 温泉会館 1施設	49.4	200.0	9.4	アルカリ性単純硫黄温泉 (低張性-アルカリ性-高温泉) (調査：平成28年6月2日)	動力 揚湯	身延町
源泉館 神泉 旅館1施設	30.2	構造上 測定不可 自然湧出	8.4	単純温泉 (低張性弱アルカリ性低温泉) (調査：平成26年4月15日)	自然 湧出	民間
湯元ホテル第一 源泉 旅館1施設(岩風呂)	29.6	50.9	8.7	アルカリ性単純温泉 (低張性弱アルカリ性低温泉) (調査：平成26年12月15日)	自然 湧出	民間
湯元ホテル第2・ 第3源泉(大浴 場) 旅館1施設	32.2	測定不能	8.6	アルカリ性単純温泉 (低張性弱アルカリ性低温泉) (調査：平成26年12月15日)	自然 湧出	民間
裕貴屋 洞窟岩風呂 旅館1施設	30.8	11.1	8.5	アルカリ性単純温泉 (低張性弱アルカリ性低温泉) (調査：平成24年8月2日)	自然 湧出	民間
共同泉 旅館5施設	32.5	未測定	8.2	単純温泉 (低張性弱アルカリ性低温泉) (調査：平成20年4月17日)	掘削 自噴	共同利用

下部ホテル硫黄泉 ホテル1施設	29.2	32.5	9.5	アルカリ性単純硫黄温泉 (低張性弱アルカリ性低温泉) (調査：平成28年8月3日)	掘削 自噴	民間
表下部温泉 ホテル1施設	27.2	25.6	9.6	アルカリ性単純温泉 (低張性弱アルカリ性低温泉) (調査：平成24年5月17日)	掘削 自噴	民間

(2) 取組の現状

町及び組合で所有している2つの源泉について、温度及び水位の計測を毎月行い、データを蓄積している。個人及び法人で所有している7源泉については、温度、湧出量及び電気伝導度の現地調査を年2回実施している。(業者委託)

また、県で実施している温泉資源調査により、5年に一度の頻度で全ての源泉の温度、pH及び導電率等の調査を行っている。

(3) 今後の取組方法

温泉資源の保護を一層推進するため、データ測定を継続していくとともに、集計されたデータの評価を行い、温泉資源の保護に努めていく。

6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策

(1) 温泉の利用に当たっての関係設備の状況

温泉の利用に当たって使用している設備及び温泉利用の状況は、以下のとおりである。

①浴用利用のみ

温泉地	源泉数	浴用利用施設までの設備	浴用利用施設数
下部温泉郷	2	引湯管、貯湯槽（奥の湯高温温泉、厚生組合）	18
	7	自然湧出	7

②浴用及び飲用利用

温泉地	源泉数	浴用利用施設までの設備	浴用利用施設数
下部温泉郷	1	引湯管、貯湯槽	1

(2) 取組の現状

取組みの状況は、次のとおりである。

設備	区分	取組	実施主体
源泉	身延町下部奥の湯 温泉条例	高温温泉は必要に応じ、水質、成分 検査を実施	町 所有者
引湯管	身延町下部奥の湯 温泉条例	すべての源泉の引湯管等について、 年1回のクリーニングとバルブ等の 点検を実施	町 所有者
貯湯槽	山梨県レジオネラ 症発生防止対策指	すべての貯湯槽について、年1回の 点検と清掃を実施	所有者
浴槽	山梨県レジオネラ 症発生防止対策指	すべての浴槽について、毎日換水と 清掃を実施し、十分な温泉水の補給 を行い、清浄を保持	所有者

飲泉 施設	山梨県温泉飲用 利用基準	飲泉施設の一般細菌、大腸菌群等の 検査を年1回実施	所有者
設備 周辺	自主的	施設周辺において、清掃の徹底と衛 生保持に努める	所有者

(3) 今後の取組方策

さらに温泉を衛生的に良好に保つため、実施主体と調整し、現状の取組を継続すると共に、加えて、以下の取組を行う。

設備	区分	取組	実施主体
源泉	自主的	浅層地下水が混入しないよう、遮水 対策の実施	所有者
引湯管	自主的	バルブ、ドレン等の点検とクリーニ ングを年2回以上実施	所有者
浴槽	自主的	すべての浴槽の水質検査（レジオネ ラ菌等）を年1回実施	所有者
飲泉 施設	自主的	飲泉施設の一般細菌、大腸菌群等の 検査を年2回実施	所有者

7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策

(1) 温泉の公共的利用の状況

下部温泉郷は、第12代景行天皇の代、甲斐の国造塩海足尼という者が、領内巡視の折発見したと伝えられる霊湯で、その後甲斐の武将武田信玄公が戦傷兵をこの温泉で癒したことから、信玄公のかくし湯として古くから知られることとなった。

また、井伏鱒二、若山牧水、高浜虚子など多くの文人が、執筆の宿として宿泊し、山梨県を代表する湯治場として多くの湯治客が訪れた。

近年の下部温泉郷における温泉利用状況は、以下のとおりである。

①過去3年間の温泉の利用者数

温泉地	区分	24年度	25年度	26年度
下部温泉郷	宿泊	105,846	134,275	103,784
	日帰り	36,918	38,155	26,063

②直近1年間（平成26年度）温泉の利用者数

温泉地	区分	施設数	総定員 (日)	利用者数				
				4月	5月	6月	7月	8月
下部温泉郷	宿泊	19	783	10,155	9,472	9,108	8,128	11,341
	日帰り	13		2,562	2,646	2,110	2,288	2,533
合計		32	783	12,717	12,118	11,218	10,416	13,874

利用者数							
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9,166	9,919	11,078	5,887	4,982	5,575	8,973	103,784
2,320	2,147	2,258	942	1,997	1,976	2,284	26,063
11,486	12,066	13,336	6,829	6,979	7,551	11,257	129,847

(2) 取組の現状

下部温泉郷において、温泉の公共的利用の増進を図るため、現在行っている取組の状況は、以下のとおりである。

温泉地	取組	実施主体
下部温泉郷	下部温泉郷ガイドマップや散策マップ、温泉郷旅館案内パンフレットを作成している。	下部観光協会 下部旅館振興協同組合
	作成したパンフレット等を、主に首都圏の公共施設や高速道路のSA、JR東海静岡駅などで観光キャンペーンにて配布し、下部温泉郷のPRを行った。	身延線沿線観光振興協議会
	毎月26日の「風呂の日」に無料入浴サービスを行い各旅館、公共施設等ポスターを掲示してPRに努めている。また、11月26日には「いい風呂の日」無料入浴サービスを行っている。	下部旅館振興協同組合
	4月の夜桜ツアー、5月の下部温泉祭り、6月のホテル祭り、8月のヤマメ祭り等のイベントを開催し、チラシやHPで下部温泉郷をPRしている。	下部区 下部観光協会
	湯町ホテル公園を整備し、湯治客や地元住民の心身を癒すよう、源氏ホテル、平家ホテル、姫ホテルの育成に努めている。	下部区 下部観光協会

(3) 今後の取組方策

下部温泉郷の利用促進のため、温泉の適正利用を進めるとともに、自然環境の保全に努めながら、由緒ある湯治場としての風情を残し、文化資源の保全と活用等、実施主体と連携を図りながら、現状の取組を継続するとともにそれらに加え、以下の取組を推進-

温泉地	取組	実施主体
下部温泉郷	しもべ病院と連携し、健康増進及び疾病予防のための温泉利用法を周知できるよう、旅館関係者の指導を行うとともに、温泉入浴指導員の育成をしていく。	下部旅館振興協同組合
	本栖湖、身延山久遠寺、公共体験施設等と連携し、各施設と協議しながら、独自の体験型宿泊ツアーのプランを作り、HP等で全国に発信していく。	下部旅館振興協同組合 下部観光協会
	下部温泉郷の歴史、文化を活用し、フットパスと宿泊のプランを作る。熊野神社・弘法大師や歌碑・句碑等の謂れを書いたマップを作り、スタンプラリーとしても楽しめるよう工夫する。また、下部温泉郷を広く周知するため、湯めぐりパスなどを実施する。	下部旅館振興協同組合 下部観光協会
	温泉祭り、ヤマメ祭りは、マンネリ化したことにより、魅力の薄れたイベントになりつつある。そこで実施方法を全面的に見直し、旅館の宿泊客の参加を現状より増加するよう、地域住民、下部区関係者、観光協会員、旅館関係者、行政担当者等と協議し、宿泊客にとって魅力あるイベントになるよう企画する。	下部区 下部旅館振興協同組合 下部観光協会 身延町観光課
	湯町ホテル公園が湯治客並びに地域住民にとって、さらに魅力ある癒しの場としての公園になるよう、施設の整備を進めていく。年間を通じて楽しめる花木の植栽は引き続き行い、ホテルの育成・増加のためのカワナナの採取及び餌やり等に積極的に取り組む。	下部区 下部旅館振興協同組合 下部観光協会

8. 高齢者、障害者に配慮したまちづくりに関する計画

(1) 公共の用に供する施設の状況

下部温泉郷における公共の用に供する施設の状況は、以下のとおりである。

温泉地	区分	施設
下部温泉郷	公有施設	道路（主要地方道湯之奥上之平線）、甲斐黄金村・湯之奥金山博物館、下部温泉会館、下部観光案内所、熊野神社
	私有施設	弘法大師祈祷所、門西家住宅、旅館19軒、慈照院 JR東海身延線下部温泉駅
	関連公有施設	下部リバーサイドパーク、湯町ホテル公園

(2) 取組の現状

以下のとおりである。

温泉地	区分	施設	取組	実施主体
下部温泉郷	公有施設	道路	下部温泉郷地内の県道湯之奥上之平線において、下部温泉駅からしもべ病院までの区間を、高齢者や障害者が安全で安心して通行するための道路改良工事が実施され、道路の幅員と歩行者帯の確保がされた。これにより、交通弱者である高齢者・障害者等の安全性が向上した。	山梨県
		建築物	一部の公有施設では、山梨県障害者幸住条例の整備基準に適合した車イスで通行できる傾斜路の設置、出入口等の幅員を確保し、エレベーターの整備、階段の手すりの設置など、高齢者や障害者に配慮した安全で容易に利用できる施設整備を進めている。	身延町

下部 温泉郷	私有施設	建築物	一部の旅館等の施設では、山梨県障害者幸住条例の整備基準に適合した車イスで通行できる傾斜路の設置、出入口等の幅員を確保し、階段の手すりの設置など、高齢者や障害者に配慮した安全で容易に利用できる施設整備を進めている。	下部観光協会 各施設
	関連公有施設	公園	下部リバーサイドパークは、木製アスレチックなど老朽化しているため町と下部区が活用方法などについて協議し、一部グランドゴルフ場にするなど利用促進に努めている。	身延町 下部区

(3) 今後の取組方法

さらに高齢者、障害者等に配慮したまちづくりを図るため、実施主体と協議の上、(2)の取組を継続し、それらに加え、以下の取組を行う。

温泉地	区分	施設	取組	実施主体
下部 温泉郷	公有施設	建築物	下部温泉郷地内の県道湯之奥上之平線において、温泉郷内における道路の拡幅、歩行者帯の整備が必要とされるが、山梨県と協議を進める中で検討していく。	山梨県
		建築物	温泉会館は築30年を経過し老朽化が著しい。このため今後の施設利用について地元と協議する中で検討していく。	町
	私有施設	建築物	廃業となり空き店舗となった施設等景観にそぐわない施設の在り方を検討する。 また、町で策定した身延町景観マスタープランにより適正な景観保持のために区内での検討を行う。	下部区

下部 温泉郷	私有施設	宿泊施設等	下部温泉駅、観光案内所、温泉郷内の案内看板、旅館施設内の案内等に英語・中国語・ハングルなどを標記し、外国人観光客の受け入れ体制を整備する。	町 下部観光協会
		駅	無人化となった下部温泉駅に人を配置することにより、温泉郷の玄関口としてのイメージアップと併せて観光案内の中心的な場所としての整備を図るためにJ R 東海、身延町と協議を進める。	J R 東海 町 下部観光協会
	関連公有施設	公園	湯町ホテル公園は、ホテルの育成に尽力し、一年を通してHPなどで情報発信を行うほか、四季を楽しむ公園を目指して、桜、ツツジ、アジサイ、モミジなどの花木の植栽に努める。リバーサイドパークは、グランドゴルフ場を整備して、地域住民や湯治客の利用促進を宿泊施設に働きかける。	身延町 下部区

9. 災害防止対策に係る計画及び措置

(1) 温泉地の地勢及び災害の発生状況

下部温泉郷は、下部川に沿って約2 kmに細長い集落を形成している。下部川と岩山に挟まれた地形で、静岡県朝霧高原に続く山々から流れ出る清流は、水量が多く、湯治場としての温泉街の風景に無くてはならない存在感を誇っている。

身延町東部を構成する岩層は、上位より沖積層、洪積層、新第二紀層は凝灰質泥岩、砂岩泥岩互層、礫石等よりなっている。沖積層は富士川の支流である常葉川、雨河内川、下部川の各河川沿いに細長い分布を示し、河川堆積物、砂礫よりなっている。

洪積層は主として河岸段丘として分布し、下部川、常葉川沿いにある。広いものは、上之平部落にわたるもの、波高島部落にわたるものがある。凝灰質泥岩、砂岩泥岩互層は新第三紀中新世中期のもので、西八代層群の上部に属するとされている。凝灰質泥岩は比較的粗粒で、時に薄い凝灰質砂岩をはさんでいる。砂岩泥岩互層は砂岩と泥岩の細かい互層の泥岩優勢であるが、下半部では安山岩質礫岩をはさんでいる。

温泉が湧出しているのは主として砂岩泥岩互層である。礫岩は径10センチメートル以内の砂礫が凝灰物質によって膠結されている。礫としては輝緑凝灰岩、径珪岩、硬質砂岩などが認められる。

凝灰質泥岩は、常葉川右岸で波高島集落を中心として、同川左岸では、波高島駅対岸より下流にそれぞれ分布している。砂岩泥岩互層は前記凝灰質泥岩の北東方向それぞれに分布している。下部川沿いには、同地層の下半部が見られる。礫岩は下部川の廻沢部落南方から東方向に見られ、北方向へ延びて雨河内川に達する。どの岩層も互いに漸移する。このほかに火成岩としては、湯之奥から毛無山にかけて角閃石扮岩が分布する。これは西八代層群を貫いたものといわれている。

本地域の特徴的な地質構造は、雨河内川から下部温泉駅附近を経て、波高島に至る東北東より西南西方向のいわゆる雨河内断層である。推定断層であって断層面は確かめられないが、両側で地層の分布にずれがあり、水平方向の変動が大きいようである。断層近くでは地層の走向傾斜が著しく異なり、時に垂直層までみられる。この断層の傾斜は恐らく急な南傾斜の面で北西より南東ないし北北西より南南東の走向、30度より65度の南西傾斜を示すが、上位層ほど走向は南北に近づき傾斜は急となる。断層の北方では東より西ないし北西より南東の走向、30度より80度の南ないし南西傾斜を示す。

雨河内川の流路は雨河内断層の走向と一致し、温泉地より下流の下部川は露出する砂岩泥岩互層の走向と一致する。節理としては層理面に平行なものと、これに直交するものと

が発達したようである。このような節理が温泉の賦存と流動とに重要な関連を持っているのかも知れない。

また、下部温泉郷を流れる一級河川下部川は、河川断面が狭く大雨になると姿を一変し、濁流となって温泉街を流れ下る。平成23年9月の台風災害によって下部川に架かる橋が決壊、道路も1箇所崩落したほか、複数の旅館や商店、民家に土砂が流れ込むなど、大きな災害にみまわれた。山梨県、町と協議する中で、具体的な対策について検討が進められている。

(2) 計画及び措置の現状

下部温泉郷において、現在、災害防止に関し策定している計画及び講じられている措置は、以下のとおりである。

温泉地	計画又は措置	計画又は措置の概要
下部温泉郷	崩壊土砂流出危険地区	下部温泉郷内廻沢地内1.68haが指定されている。
	山腹崩壊危険地区	本指定により、危険箇所が随時改修されている。
	土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩落11箇所、土砂流出6箇所
	土石流危険溪流	栃代、常葉川の一部が指定されている。
	急傾斜地崩壊危険箇所	昭和24年4月1日指定。危険人家戸数が137戸指定されている。 県において、急傾斜地崩壊危険箇所について、対策工事を行っている。
	身延町地域防災計画	災害対策基本法第42条及び大規模地震対策特別措置法第6条第1項の規定により、身延町防災会議が作成。町の地域に係る災害に関し、町の処理すべき事項や地域内の防災機関を包含した統合的、機能的な計画として定め、すべての機能を効率的に発揮して防災活動の万全を期し、もって住民の生命、身体及び財産を、災害から保護することを目的としている。

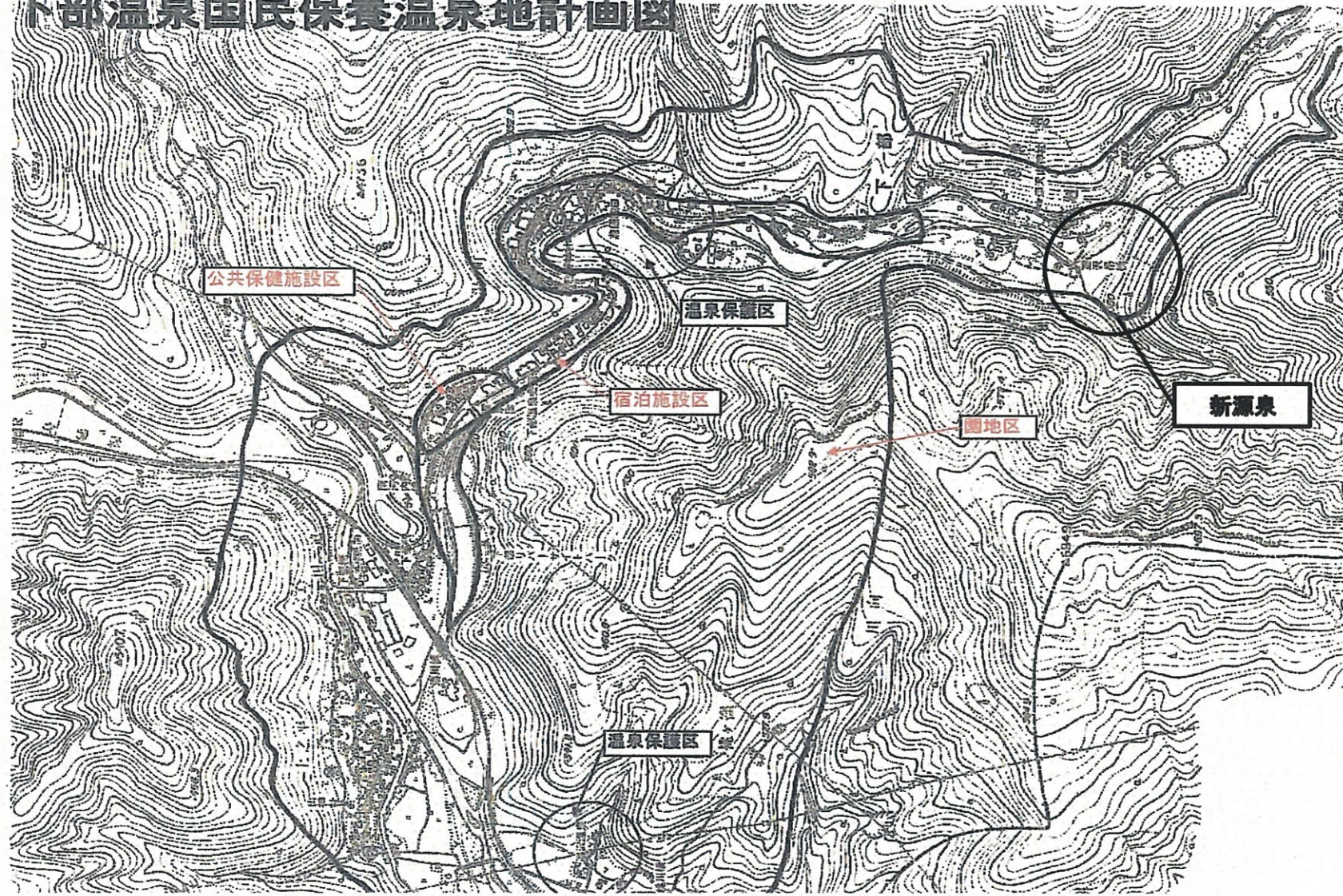
(3) 今後の取組方策

下部温泉郷において、実施主体と協議の上、現状の計画及び措置に基づく取組を継続する。

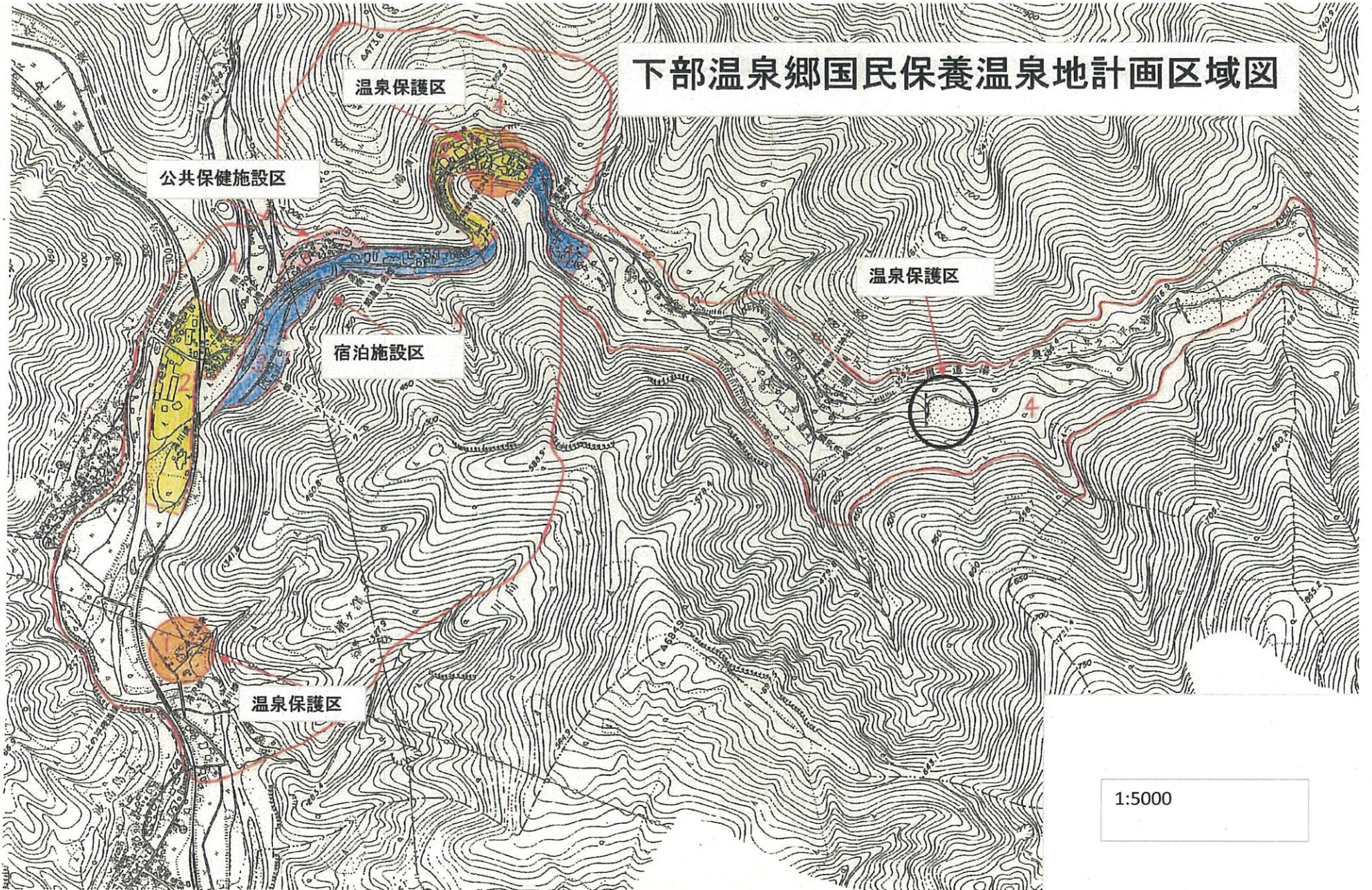
自然環境・温泉利用性等の概要

1. 土地所有関係		国有地	公有地	私有地	合計
(面積 ha)		2.5	1.17	129.33	133.00
2. 自然環境		下部温泉郷は、周囲を山々に囲まれた自然豊かな湯治場で、下部川、常葉川をはじめ、多くの清流に恵まれている。四季を通じて景色を変える山々は、それぞれの季節に登山者や釣り人、散策を楽しむ人の健康志向を満足させる環境に、湯治場の風情がマッチした温泉郷である。			
3 気象	気温等	降雨量、積雪は比較的少ないが、地形的変化が大きく、夏と冬の寒暑差が大きい			
	雨量等	年平均雨量 2, 100mm		降雪期 12月～2月	
4. 温泉	自噴	公有 本 私有 3本	公有 1本 動力 私有 5本	公有 1本 合計 私有 8本	
	低温	湧出量 1, 068.30/分		温度 30.3℃	
	高温	湧出量 449.00/分		温度 51.0℃	
	泉質	低温・弱アルカリ性単純温泉		高温・アルカリ性単純温泉	
	適応症	1. 慢性関節リウマチ 2. 慢性筋肉リウマチ 3. 神経痛 4. 神経炎 5. 骨及び関節等運動器障害 6. 外傷性障害の後療法 7. 疲労回復			
5. 協力医療機関	名称	医療法人交道会しもべ病院		所在地 身延町下部1063	
	医師数	2人			
	国民保養温泉地における役割	保養療養者の相談、指導等			
6 環境衛生	上水道	上水道は町営水道が完備されている			
	下水道	下水道は町の下水道設備が完備されたが、利用者は少なく、従来の処理施設を利用している			
	その他	可燃物、不燃物、その他、峡南衛生組合が定期的に収集処理している			
7 利用性	周辺の主要都市	都市名	甲府市	富士吉田市	
	人口(万人)	19.2		5.1	
	到達性	方法	電車	バス・電車	
	時間	60		60	
	宿泊施設	施設数	公営 0 民営 19	収容人員 1, 119人	
	利用実績	年間利用者 129, 847人 (内宿泊 103, 784人)			最盛期 11月
8. 災害関係	平成23年9月の台風災害以降は大きな災害は受けていない				
9. その他	急峻な岩山と下部川に挟まれているため、一層の防災意識を高めていく				

下部温泉国民保養温泉地計画図



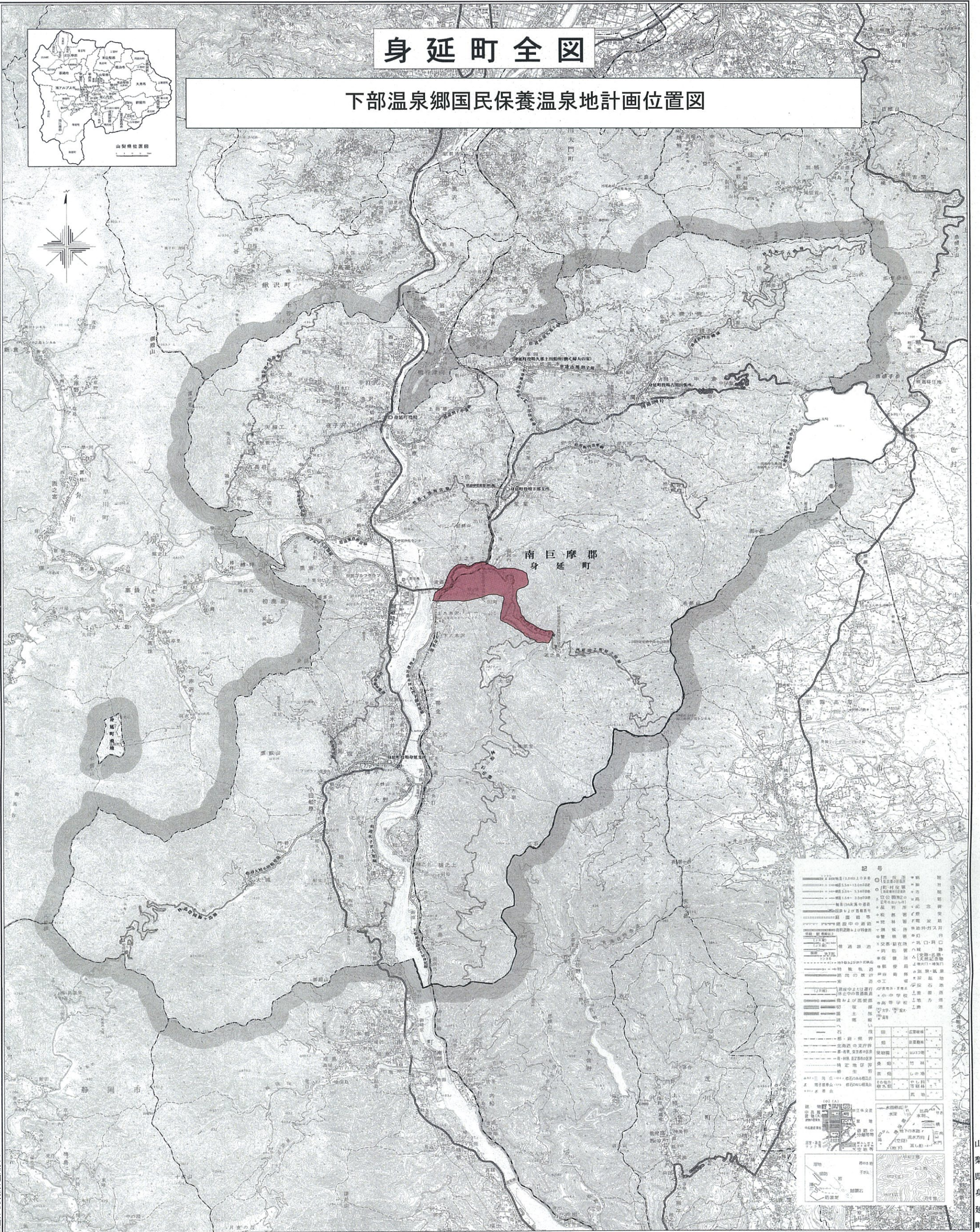
下部温泉郷国民保養温泉地計画区域図



1:5000

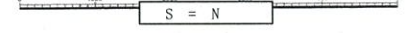
身延町全図

下部温泉郷国民保養温泉地計画位置図



記号			
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地
	境界線		温泉地

1 : 50,000



S = N